

教育目標『夢や目標をもって自ら学び、心豊かで、たくましい児童を育成する。』

美里町立南郷小学校



らぶりー南郷 2015

学校だより

〈第14号〉

平成27年10月19日

文責 教頭 高松 祐士

〒989-4205 美里町木間塚字高田5 Tel 0229(58)1106 Fax 0229(58)0461 <http://nango-es.misato-ed.jp>



南郷小学校の一大イベントである学芸会が、いよいよ今週末に迫ってきました。どの学年の練習にも熱が入ってきており、子供達は保護者の皆さんに素晴らしい演技を見てもらおうと、はりきって取り組んでいます。

練習を通して「友達とかかわる」「みんなが笑顔あふれる学芸会をもとめる」「自分の役割をはたす」ことを実践している子供達の姿と笑顔がたくさん見られています。

当日のパフォーマンス、ご期待下さい。

学校がきれいになりました。 PTA奉仕作業

10月10日(土)に南地区のみなさんにご協力をいただき、校庭の側溝掃除や草刈り、教室の窓磨きなどの清掃活動をしました。

当日は80名あまりの保護者の方々に集まっていただき、お父さん方も大勢参加していただきました。お父さん方、男の力は側溝の泥上げ作業では大変助かりました。ありがとうございました。



お知らせ & お願い

過日、「JA空き地の工事に伴う児童の送迎について」のプリントでお知らせしておりましたように、学校正門の向かい側にあるJA空き地の工事が始まり、児童の送迎がこの場所でできなくなりました。

登校時の様子を見ると、ゴミ置き場近くの路上でお子さんを送迎にする車や正門脇の職員駐車場を利用している車も見られています。どちらも、交通量が多く、見通しも悪く、危険です。子供達の安全という観点から、児童の送迎は「体育館入り口側の駐車場」及び「ふるさと中央公園の駐車場」を利用して下さいますようお願いいたします。



芸術の秋・文化の秋・読書の秋 おめでとう!!

- 宮城県造形展
入選 5年 白石 奈月 さん
- 「川をきれいに」をテーマとした
図画・ポスター
図画部門金賞 4年 野田くるみ さん
- 青少年読書感想文コンクール
地区入選 1年 赤間 日音 さん
3年 高橋 彩笑 さん
6年 渡辺 優加 さん
- 福祉作文コンクール
優秀賞 5年 高橋 琴音 さん

「平成27年度学力・学習状況調査の結果」について(南郷小学校の結果概要)

心の成長が見えてきています!!

4月に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。基本的生活習慣や学校生活、自尊意識、規範意識などの項目で全国や県の平均とほぼ同様な数値となりました。

特に、「朝食を毎日食べていますか」や「学校のきまりを守っていますか」等のポイントが高く、昨年度同様に心の成長が見られました。このことは、本校の強みになっています。

『学力』と『心の成長』は両輪で働き合います。学力にも心の成長がよい影響を与えており、「学校の授業などで、自分の考えを他に人に説明したり、文章に書いたりすること」は全国や県のポイントより上になっていることが分かりました。詳しい結果分析と考察、改善策等については以下のとおりです。

1 教科の領域別における分析結果と学習指導に当たって

◇…おおむね理解している点 ◆…課題のある点 □…今、努力している点

(1) 国語科

①主として「知識」に関する問題

<話す・聞く> ◆「話の内容に対する聞き方を工夫する」力が、十分でない。

・普段から話合いの内容などに注意しながら、必要に応じてノートやメモに整理して聞く習慣付けをさせる。

<書くこと> ◇「具体的な事例を挙げて説明する文章を書く」ことが、できている。

<読むこと> ◆「新聞のコラムを読み、表現の仕方を捉える」ことが、十分でない。

<言語事項> ・自分の主張を効果的に伝えるための表現の工夫ができるように指導する。
・書き手のものの見方や考え方について賛成したり反対したりしながら読むようにさせる。

◇漢字の読み書きは、おおむねできている。

◆「文の中の主語を捉える」ことが、十分でない。

・文章を読むときに、主語は何かを意識して読むようにさせる。

②主として「活用」に関する問題

<書くこと> ◆「目的や意図に応じて詳しく書く」「文章と図を関係付けて、自分の考えを書く」が、十分でない。

・自分の考えとの共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理した上で、自分の考えをまとめさせる。
・事実と感想、意見などを区別して捉えさせる。

<読むこと> ◇「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える」は、おおむねできている。

◆「登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える」は、十分でない。

・物語を読む際に、登場人物の行動や気持ちの変化を意識しながら読むようにする。

(2) 算数科

①主として「知識」に関する問題

- <数と計算> ◇整数・小数・分数の計算、四則の混合した計算は、おおむねできている。
◆末尾の位のそろっていない小数の減法の計算が、十分でない。
・計算の技能の習熟や維持を図るために適度の繰り返し練習の機会を設ける。
- <量と測定> ◆「分度器を用いて180°よりも大きい角の大きさを求める」ことは、十分でない。
・繰り返し練習の機会を設ける。
- <図形> ◆円の性質と二等辺三角形の性質を関連付けて考えることが、十分でない。
・図形の約束や性質を理解させる。
- <数量関係> ◇「グラフの読み取り」や「式で表現された数量の関係を図と関連づけて理解すること」とは、おおむねできている。

②主として「活用」に関する問題

- <数と計算> ◆「四捨五入して千の位までのおよその数にして計算すること」が、できない。
◆「概数を用いた見積もりの結果」について、できていない。
・概数や四捨五入について、計算の結果を見積もったり、見積もった計算の結果を確かめさせたりする。
- <量と測定> ◆「面積を2等分する考え」について、できていない。
- <図形> ・面積を求める際に、課題に応じた説明をする活動を取り入れる。
◇「平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせ」について、理解している。
◆「平面図形の周の長さ」や「図形の面積の求め方」について、できていない。
・図形の約束や性質について理解させる。
・図形を活用することのよさに気付かせる。
- <数量関係> ◆「比較量と割合から基準量を求める」ことは、できていない。
◆「割り引き後の値段の求め方」について、十分でない。
・示された条件を読み、日常生活での事象や他教科での場面を取り上ながら、基になる量などの数量関係について理解させる。

(3) 理科

- <物質> ◆「メスシリンダーで一定量の水をはかり取ること」や「グラフを基に考察すること」「観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析すること」は、十分でない。
・器具や用具の使い方に慣れさせる。
・実験や観察の際に、予想や見通しを持たせながら行い、自分の考えや結果をまとめさせる。
- <エネルギー> ◇「振り子の運動の規則性」や「電磁石と磁石の性質」について、おおむね理解できている。
- <生命> ◆「顕微鏡の名称とその操作方法」について、十分でない。
・器具や用具の使い方に慣れさせる。
- <地球> ◇「打ち水の効果」について、グラフを基に考察して分析できている。
◆「観察した事実と関連づけながら方位を判断する」ことが、十分でない。
◆「水が水蒸気になる現象について」十分でない。
・身の回りの出来事に興味・関心をもち、「なぜだろう?」「どうしてだろう?」という疑問を大切にしていける。

2 児童生徒質問用紙の内容別における分析結果と考察

(1) 基本的な生活習慣

- ◆朝食を毎日食べていますと回答した児童は、県や全国と大きな違いは見られないが、同じぐらいの時間に起きる、寝ると回答した児童が県や全国をやや下回った。
- ◇携帯電話、スマートフォンの所持率が低く、使用時間も県や全国平均を下回っている。

さらによりよく

- ・家庭との連携を密にして基本的な生活習慣の確立を図る。
- ・朝食の必要性や適切な携帯電話等の使用方法について家庭への啓発を行っていく。

(2) 学校生活

- ◆協力して何かをやり遂げ、うれしかったと答えた児童は、県や全国をやや下回っている。

さらによりよく

- ・係活動や行事等で協力して取り組むことの大切さについての意識をさらに高める。
- ・児童一人一人のがんばりやよさを認める機会をさらに多く設ける。

(3) 言語活動

- ◆友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができると答えた児童、友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だと回答した児童は、県や全国よりやや下回っている。

さらによりよく

- ・各教科、各領域での言語活動のさらなる充実を図る。
- ・「聞く態度、感想をもつ、自分の考えと比べる」の段階をふまえて指導の徹底する。

(4) 学習時間等

- ◇家庭で計画的に学習に取り組んでいる児童が多い。予習・復習をしていると回答した児童が共に少ないことから、宿題が中心となっている事がうかがえる。
- ◆平日はおよそ半数の児童が1時間以上学習していると回答している。また、土日は学習時間が県や全国より少ない。
- ◇家庭での読書時間が県や全国平均を上回っている。

さらによりよく

- ・PTAと協力している「ノーテレビ・ノーゲームデイ」の取組を強化するなど、家庭学習の定着のために保護者の協力を求めていく。
- ・6年間を見通した家庭学習の手引き等を作成する。

(5) 自尊感情

- ◆難しい事でも、失敗を恐れなくて挑戦していると答えた児童、自分にはよいところがあると答えた児童は、県や全国よりやや下回っている。

さらによりよく

- ・本校経営方針に掲げるめざす子ども像「失敗してもまたやり直す子ども」の育成と失敗をフォローし合える学級づくりを目指す。
- ・何事にもじっくり取り組ませることで、最後までやりぬこうという気持ちを育てる。
- ・結果だけでなく、取り組んだ過程での良さを見つけての指導を行う。

(6) 将来に関する意識

- ◇将来の夢や目標をもっていると答えた児童は県や全国とほぼ同じ結果である。

さらによりよく

- ・生き方について道徳や特別活動など志教育の核をなす取組をもとに促していく。

(7) 規範意識

- ◇「学校のきまりを守っているか」という質問に対して、当てはまると回答した児童の割合が県や全国を上回っている。
- ◇「人の気持ちが分かる人間になりたいか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という質問に対して、当てはまると答えた児童の割合は県や全国と同じ程度である。
- ◆「人の役に立つ人間になりたいか」という質問に対して、当てはまると答えた児童の割合は県や全国よりも下回っている。

さらによりよく

- ・一人一人の居場所がある居心地のよい学級づくりをさらに進めていく。
- ・周囲に大切にされている、支えられている、認められているという実感をもたせる。
- ・道徳教育の充実と道徳的実践力の育成を図る。